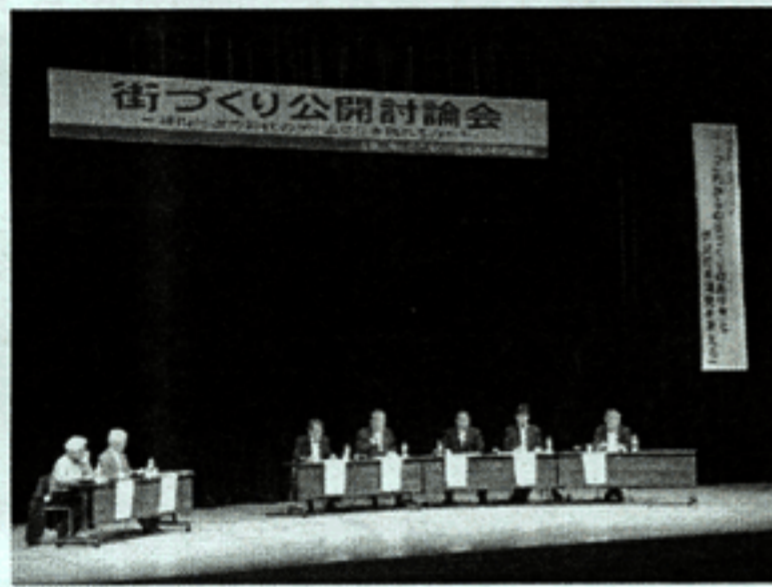


伏見町再開発ニュース

街づくり公開討論会 開催報告



第1部 基調講演



第2部 パネルディスカッション

7月27日(火)午後6時から広島県民文化センターふくやま「ホール」にて「街づくり公開討論会」が行われました。約270人の参加があり、おかげさまで大盛況に終わりました。

2時間半にわたり基調講演とパネルディスカッションが行われ、基調講演では「現経済状況下での街づくりのあり方」—福山は次の時代のゲームに生き残れるか?と題して、都市計画家である蓑原敬氏の開発の歴史、時代背景や過去行われた再開発の事例を通し福山市についても触れ、今まで産業によって発展してきたことや産業形態の変化による影響を受け、今後福山市を活性化するにはどのようなことをしていくかなど専門家から見た意見を伺うことができました。伏見町再開発を進めるにあたり、参考となるようなヒントをたくさんいただきました。

パネルディスカッションではパネリストとして福山市 岡崎恣副市長、福山商工会議所 藤井基博副会頭、福山青年会議所 石井宏和理事長、(株)UD コンサルタンツ 西田修社長に参加していただきました。「駅から商店街、天満屋へと向かいたくなるようなきれいな玄関口となってほしい」「駅前一等地であることから観光などの窓口としても活躍できるのではないか」「伏見町で子育てをしたいと思ってもらえるような街づくり」「店舗にシャッターのない明るい街にしてほしい」「お年寄りが生活しやすく、子どもが楽しく暮らせる街へ転換してほしい」など伏見町の役割や伏見町に関する期待、思いなど地権者とは違った見方からの意見も聞かせていただきました。

今回の「街づくり公開討論会」を通して伏見町再開発を市民の方に広く知ってもらえたのではないかと思いますと同時に、伏見町が福山市の玄関口として、中心地の活性化を促す起爆剤としてさまざまな方面からの期待の大きさを実感いたしました。そういった期待を一身に受け、一刻も早く事業化できるよう努めてまいりますので、今後ともご協力よろしくお願ひします。

基本構想検討委員会 第1回開催 報告

○ 開催の目的

これまで進めてきた当地区の再開発計画が社会経済状況の激変に伴い、実現することが困難なものになりました。経済変化による影響とはいえ、理事会としてもこの事態を予測できなかったことを反省しております。

しかし、この地区の再開発の動きを止める訳には行きません。そのためには、改めてこの地区にふさわしい実現可能な基本計画を作らねばなりません。基本計画は、何より地権者の負担が少なく生活再建が可能でものもであり、また地域社会から支援を受けられるものでもなければなりません。

そこで、従来の計画を一旦白紙に戻し一から見直すため、構想段階から専門家や地権者が出来るだけオープンに議論していただき、そこでの意見で可能なものを基本計画に反映させることを目的に当委員会を設置いたしました。

○ 委員会の流れ

主催者の挨拶から始まり、横島先生が委員長に選任され委員会の議事に入りました。

まず、福山市から「福山市の上位計画について」の都市マスタープランの概要、福山駅前を中心にした整備の概要等の説明がありました。

続いて、ユーデーコンサルタンツより当該地区の現況について、当該周辺地区における開発動向について、コーディネーター選定時の街づくり構想についての説明があり、その後意見交換を行ないました。



○ 各委員の主な意見

- ・そこに住む人も集う人も、家族単位で明るく、楽しく、にぎやかにということが必要である。
- ・もてなしの精神で街づくりを考えたい。立体的な多層の街を積み上げるなど、新しい発想が必要である。
- ・都市型居住で、街でいろいろなことがあって、歩いて楽しい街づくりをしてほしい。
- ・マンションを上部に積み上げるのではなく、別棟にしたらどうか。
- ・若い人も年寄も、安心して住めることがポイントだ。伊藤滋先生の「お年寄りの長屋」というのがあるが、マンションからお年寄りの長屋を見たい。
- ・街の中に人が住む、それが伏見町に求められる。
- ・富山市のグランドプラザというのがあるが、道路指定を解除し、屋根をつくり、イベントをしている。そういう仕組みをつくっていきたい。
- ・地元に住んでいたら気がつかない良いところが沢山ある。我々が気づいていない福山の文化を取り入れてほしい。



- ・ 来年にはアイネスが完成し、新しい機能が発揮される。そうしたことを踏まえて、新しいことを検討してもらいたい。
- ・ 人と人、物と物の交流の場、常に発信していく場であってほしい。
- ・ キーワードは「高齢者」と「城」である。
- ・ 玄関口というよりも応接間にしたらどうか。郊外の商業施設との役割分担が必要であり、価格競争では郊外に勝てないにしても、駅前地区は「心の売買」を担ってもらえればと思う。
- ・ アイネスと同じことをやってもどうかと思う。アイネスは「剣」なので男性的、伏見町は「鏡」の位置にして女性的、潤いや優しさを担うことを求めたらと思う。
- ・ 高齢者が何を求めるか、健康であると思う。病院でなく、その手前の健康施設をもってきたらどうか。
- ・ 高齢者が孫と遊びたい。そこで保育園と老人大学を一緒にもってきたらどうか。
- ・ 福山城は幸いにして悲劇の歴史がない。城をモチーフにして何かつくればと思う。
- ・ 城のある街は歴史を感じる。それを街づくりに活かすのは難しいが大切である。彦根はキャッスルロードがつくられている。城下町で元気の良いところ、姫路、金沢、松本は昼間人口が増えている。福山はそれに近いと思う。
- ・ 伏見町の地下には石垣遺構がある。遺構の上に街を積み上げる、日本のすばらしい建築技術を活かしてそういう構想を練ってもらいたい。
- ・ 観光拠点としてハブ的な役割を担っていくべきだ。福山駅の乗降客1日4万人、岡山6万人をどう取り込むのか。のぞみが在来線と同じ駅に着くのは大きい。
- ・ 来春市立大学が開学するが、市立大生との交流も今後考えられる。
- ・ 福山の歴史としてはお城が400年であるが、その他に、明王院の国宝や、草戸千軒町遺跡、さらに遡れば鞆の浦など、1300年以上の歴史がある。万葉集には福山のことを詠んでいると思われる歌が10首ある。その歴史の重みがある。
- ・ 市民病院は郊外であるが、バスで行くのが不便である。IT化で、電子カルテの拠点を駅前につくるのも面白いと思う。
- ・ 駅を中心とする交通結節点として見直さなければ、伏見町でいいものをつくっても活かしきれないと思う。アクセス面の整備を考えてもらいたい。

以上、初会合における各委員のご意見の一部を紹介しましたが、今後準備組合では委員会の議論を進め、年内には基本計画素案を策定し、2年後の都市計画決定を目処に合意形成の作業を進める予定です。

～今後の予定～

第2回 基本構想検討委員会

日時：平成22年9月28日(火)

* 正式に決まりましたらご案内いたします。

再開発について何かご不明な点などございましたら、

いつでも事務局にご相談下さい。 TEL 084-931-2208



お知らせ



～西田社長に想いを伝えませんか？～

現在、コーディネーターの西田社長をかこんで意見交換等を
グループで重ねております。

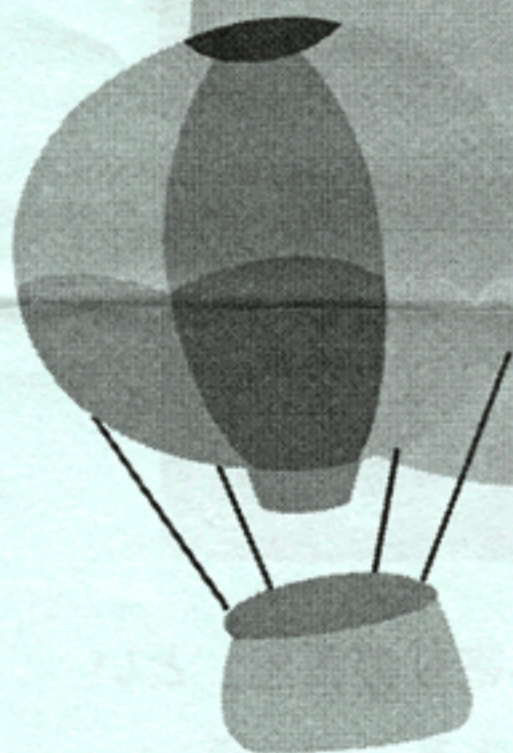
今後は並行して、個別でも意見交換も行なってまいります。

基本計画の素案を作るに当たり、
より多くの地権者の方の意見を聞きたいと
思っております。

日時等は事務局が調整いたします。

お気軽にお申出ください。

問合せ先：084-931-2208



*** 事務所は、8月12日(木)～8月16日(月)まで、閉めております。**

何かございましたら、藤本理事長 TEL084-924-1820 までお願いいたします。